

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400153		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の里 楽舎		
所在地	島根県出雲市宇賀町23番地10		
自己評価作成日	令和4年11月17日	評価結果市町村受理日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和4年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者の方と生活を共にし、暮らしを支え命を護る」「愛、家族、絆のかけはしに..」の理念実践に向けて日々取り組んでおります。利用者様のこれまでの人生の歴史を尊重し、利用者様に笑顔が絶えない毎日を送っていただき、御家族様にも一緒に喜んでいただける様に繋がりを大切に支援しております。温かさのある手作りの食事、清潔な空間や生活を提供することで、ご自分の力をいつまでも発揮できる場面作りを日々取り組んでおります。

毎月、フルーツデイを開催したり、行事・外出をすることで季節の移り変わりを一緒に感じ、思い出話や風習などを共有させていただき支援へ取り入れさせていただいております。地域との関わりも社会状況に合わせて柔軟的に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

季節の移り変わりを感じられる自然豊かな場所にあり、同敷地内の2ユニットのグループホームに続いて建てられている。浴室、テイルーム、廊下等スペース的にゆとりがあり、木目調で落ち着いた雰囲気がある。開所当時から認知症の専門施設として掲げられた理念が施設長を中心として多くの職員に引き継がれている。一人一人に合わせた対応を研修や勉強会を重ねながら検討しており、困難ケースにも前向きに取り組んでいる。寝具、衣類等の洗濯や掃除をこまめに行い、臭いの無い施設をと、職員の業務負担は増す中でも徹底されている。年中行事として行われていた家族会や地域イベントへの参加はコロナ禍で途切れているが、中でも近くの小学校との交流や平和行事への協力は継続している。コロナ禍で制限の多い中だが、チームワークで乗り切っていたいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 認知症高齢者グループホーム宇賀の里 楽舎	理念(事業所)、今月の理念(各月に職員考案のもの)を毎朝、朝礼時に出勤者全員で唱和を行い都度意識し支援につなげている。	開所時からの理念を継続しており、年度始めには理念を意識した個人目標を作成している。新規採用の職員もあるため、日々の申し送り、カンファレンス、研修の中でも理念の考え方が伝わるよう話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナ渦の影響で地域との交流は少ないが近隣の郵便局へ利用者様と訪れたり、買い物に出掛けたりしている。ボランティアの方が施設を訪れ服の修繕や生花活けて下さっている。	近くの学校やコミュニティセンター等との直接的な関わりは減っているが、プレゼントを送ったり、手紙のやりとりをしたり、個人的なボランティアは継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	楽舎新聞を定期的に地域のコミュニティセンターへ配布している。先方からも広報誌をいただき地域の様子を把握することができている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の為、書面会議で行い、写真などを添付し取り組みを報告し意見をいただき支援へつなげている。	コロナ禍の為、書面会議として定期的開催。入所者の身体状況、行事、研修報告、コロナ禍での施設の取り組み等を伝え意見をj得ている。家族、コミセン、ボランティア、地域や行政の代表者に送り、得られた意見をサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問な点や報告が必要な場合はすぐに連絡をとるようにしている。運営推進会議の際にも意見をいただき、支援へ取り入れている。	運営推進会議に参加があり専門的な意見をj得ている。包括からは入所の問い合わせ・困難事例の相談等での関わり、生活保護担当課とも情報交換を継続。グループホーム協議会に出席し情報収集も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「鍵をかけない支援」を常に理念の一つとして行っている。具体的な行為が理解できる様に勉強会や話し合いを重ね、取り組みについて協議できる場を作り、身体拘束をしないケアを実践できるよう取り組んでいる。	帰宅願望が強く外に出る方がいるが、一緒に歩いて気持ちが落ち着くように対応している。精神科の定期受診、日々の行動観察、認知症への理解など、大事に至らないよう、拘束しないケアを実践できるように委員会や研修をくり返している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し話し合いを行っている。拘束について、具体的な内容を毎日の申し送り時や毎月の内部研修で意見交換し、勉強会も定期的開催し理解を深め、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている利用者様の受け入れを通じて制度の理解や関係者との話し合いを行っている。権利擁護推進員がおり、内部研修や申し送り時に学びの機会を設け支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	リスク、事故、料金について十分な説明をし理解、納得をして頂いている。入所時に丁寧に説明をすることで安心して入所していただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際やケアプランの作成時にご家族様の要望や意見をお聞きし取り入れることで日々の支援につなげている。	年中行事として家族会を開催していたがコロナ禍で中止。家族へは担当職員が毎月、日頃の様子を伝える手紙を写真入りで送っており意見を得る機会としている。電話やメール、短時間の面会時にも様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時に意見交換や検討会を行い随時職員の個々の意見を聞き取りして支援へつなげている。	管理者は個人面談や日々の業務の中でも意見を聞きだすようにしている。気分の落ち込みがある職員に対しては、有休取得の提案やシフト変更、配置転換等も視野に入れて適切なアドバイスができるよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップすることにより手当がつき、給与に反映される仕組みになっている。ユニフォーム手当の支給もある。有給休暇も充実している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、事業所毎に研修テーマを決め発表し日々の支援に役立っている。また悩んでいる事など申し送り時や内部研修時に職員間で意見交換し、解決を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により外部研修の参加が難しい状況にはあるが、インターネットや紙面を利用し活動を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、家族様のニーズを聞き入れ、ケアマネジャーより情報提供を受けることで関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり、利用者様、家族様の意見、要望を十分にお聞きしてニーズを引き出す努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状況を見極め、何が必要か医療機関、他の専門職、ケアマネジャーなどから聞き取りを行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分で出来る事を可能な限りしていただき、できない事を支援し、寄り添うことで信頼関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様へ毎月お便りで様子をお伝えし、支援内容や生活場面、医療面において、相談、報告し受診時の付き添いや面会を通して協力していただき、絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会やお便りを通して、御家族様や知人、友人との関係作りを継続している。地域へのドライブ外出も馴染みの場所を訪れ喜んでいただいている。	軒先が長く掃き出しの窓から外に出ることができると、ため新型コロナウイルス感染症の感染の状況に合わせて、短時間であれば面会ができるようになっている。段々と復活してきた地域行事の様子をケーブルテレビで見るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の人間関係が円滑になる様に職員が配慮し、お話をゆっくりお聞きすることで孤立がないよう配慮しています。席替えを適宜行い利用者同士の関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、必要に応じて情報提供を行っている。思い出の写真や職員一同からのメッセージをアルバムにして届けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様や御家族様から好きな色や物、要望の聞き取りをしている。伝えることが難しい場合は表情や生活の様子から汲み取り、取り入れている。意向の場所へドライブしたり、希望メニューを取り入れ提供している。	入所時に今まで大事にしてきた習慣、物などできるだけ詳しく聞き、施設でも継続できることを見つけるようにしている。会話の中の言葉や実際にやってみてもらい、できることをプランに繋げるようにしている。	安定した生活が送れるよう、個別援助の充実に努めていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者様や御家族様より生活の様子、家族歴を書面にまとめていただいている。お話の中からも聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況表、入浴・排泄管理シートを活用して一目で把握できるようにしている。毎日の朝・夕の申し送り時に一人ひとりの状態を引き継ぎ、把握し職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを軸にケアをしている。居室担当制で毎月のお便り作成やケアプランの見直しにスタッフも参加。都度ケアマネジャーと協議しプランを確認している。何が原因になるのかを考えて話し合っている。	モニタリングは3ヶ月に1回、プランの見直しは6ヶ月に1回行っている。担当者会議は多くの関係者の参加は難しいが、短時間の面会時玄関先で行うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間の生活の様子から気づいたことを毎日の記録に記入し、申し送り時に話し合いプラン作りに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診対応等は基本的には家族様の対応であるが遠方の場合やすぐに対応できない場合はヘルパーやタクシーの対応を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響もあり外部との接触到に制限されているが、地域へのドライブ外出や広報誌の回覧、ケーブルテレビなど楽しんでいただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(協力医療機関)との24時間のオンコール連絡体制がとれている。他の受診については家族様の対応となるが困難な場合はヘルパーへ依頼している。	以前のかかりつけ医を継続することも、協力医に変更することもできるようになっているが、多くの方は往診や休日、夜間等緊急時の対応が可能な協力医への変更を希望される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や気づきは申し送り時に情報共有している。かかりつけ医への報告して指示を受け、緊急時に対応するため看護師と24時間のオンコール体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に病院の相談員と双方情報提供を行っている。退院カンファレンスへ参加し連携ができるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した時の指針を説明し、状態の変化を都度家族様へ報告し説明している。かかりつけ医との連携をとり、支援している。	現在看取りは行っていないが、重度に向けては病院との連携はとれており、介護度の変更や、特老への申し込みなど、必要に合わせて、その都度話合いの機会を持ちながら進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全利用者様のカルテに個別の119シート、119マニュアルを備えている。状態に合わせた疾患の資料を作成し共有している。年1回の内部研修で緊急時の対応について訓練し確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、水害・地震等の避難訓練も併せて実施している。個別の身体状況に合わせた誘導方法、待機場所での対応方法の一覧表を掲示して、避難時の名札も作成し対応できるように準備している。	定期的な訓練を昼と夜の想定で警備会社の協力で実施。隣にグループホームがあるが、単独のため特に夜間においては協力体制を整えている。今年は水害の為避難を経験。コロナ禍での避難経験を今後につなげる意向。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中での言葉のかけ方、対応方法について研修時や申し送り時に職員間で意見交換し気をつけている。異性介護や排泄・入浴等についても話し合いを行っている。	ケアの基本として相手の身になって考えることを重視し、入浴介助について新聞の投稿記事を用いて勉強会を行ったり、同性介助について検討したり、繰り返し行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のありのままを受け入れ、言葉やジェスチャーを使いコミュニケーションをはかり、本人の思いや希望をお聞きしながら自己決定につながる支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日の生活スタイルやペースを把握した上で、安心感やくつろぎ、安全を最優先にして利用者様の体調や気持ちを尊重した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔な物を身につけていただき、その人らしい身だしなみができる様に支援している。いつまでもおしゃれを楽しんでいただけるように対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日手作りの食事を提供し、個人の嗜好品を把握し誕生日や季節行事の食事に取り入れている。利用者様に下膳など協力していただいている。	コロナ禍以前は買い物から調理全般を一緒に行っていたが、今は火を通す食材のみ切ってもらっている。施設裏の畑で季節の野菜を作ったり、フルーツデイを決め季節の果物を味わったりして食を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量、毎月の身体測定を実施し把握に努めている。食事量が少ない場合にはかかりつけ医へ報告し栄養面への配慮を行っている。体操後の水分補給やテラスでのお茶会など行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後必ず口腔ケアを行い、一人ひとりの状態に応じた介助を行っている。定期的な歯科衛生士による口腔チェックを行い、異常の発見に努め、職員への対応方法の指導も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートの活用や申し送り時に日々の排泄状況の把握に努めている。個人に合わせたトイレ誘導を行うことで排泄の失敗を防ぎトイレでの排泄を積極的に行い自立支援を行っている。	トイレで排泄することを大事にしており、個々に合わせて定時誘導したり、間隔を見ながら声がけしている。紙パンツ、パットの使用者が多いが、パットの種類を決めたり、施設でまとめて購入したり家族の負担軽減に繋がるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の原因を理解し水分補給を促し適度な運動を習慣化し支援を行っている。かかりつけ医の指示のもと看護師による排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望に合わせて入浴時間を調整しゆっくりと入浴していただけるように余裕をもって支援を行っている。入浴剤やゆず湯など楽しんでいただいている。	家庭用浴槽だが浴室が広い為介助しやすくなっており、トイレもあり利用しやすい。1日おきの午前中に入浴しているが、男性介助や嫌いな方への誘導の仕方など、柔軟対応で入浴時間を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや体調に応じて居室で休んでいただいたりホールでゆっくりと過ごされたりと穏やかな気持ちで休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用内容を職員が理解できるようにリスト化、表示化している。服薬前後には2重チェックや読みあげ、飲み込み確認の徹底を行っている。かかりつけ医に症状報告を行い、薬剤師とも連携し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格や生活歴、今出来ることを把握し、役割作りや楽しみにつながる様な支援を行っている。食事に好物を提供することで楽しみをもっといただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調やお気持ちを重視し、毎日の散歩や戸外へのドライブを楽しめるよう支援を行っている。個人の外出も行い、利用者様の世界観を共有し、今後の支援につながるよう努めている。	コロナ禍前に比べると外出の機会は減っているが、段々と増やしてきており、紅葉狩りにも出かけた。車からは降りず駐車場で景色を楽しみながら休憩することで、気分転換に繋がっている。普段は軒下に出やすい為庭先での外気浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の預り金より、必要とされる物、希望される物を職員が買い物している。高額になるものは事前に御家族様へ相談し確認してから購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお手紙に写真を添え、御家族様へ様子を伝えている。お電話やお葉書のやり取りをお手伝いし繋がりを大切に支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には利用者様が作られた作品を掲示し、常に清潔に保ち、席も空間を活かしてゆとりのある様に配置している。季節の花や掲示物、大きい窓からの景色を眺めて楽しんでいる。	ホールは広く廊下も長く続きゆったりとした空間がある。施設全体が木目調で落ち着いた雰囲気。施設前の道路は交通量は少なく騒音は気にならない。窓が大きいので外の景色がよく見え季節の移り変わりが感じられる。エアコン使用時は感染症予防の為、特に換気に気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室で過ごされたり、ホールでパズルや体操、音楽やTVを楽しんでいる。一人ひとりが好きな塗り絵や貼り絵を集中して取り組まれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、利用者様の愛着のある物をお持ちいただき、使い続けておられる。落ち着いて過ごしていただけるようにベッドの位置や布団の使用で快適に過ごしていただけるよう工夫している。	思い入れのある物の持ち込みを勧めており、ダンス、テレビ、座椅子、ラックなどが置かれている。予定表が大きい字で貼られ、誕生日のポスターや運動会のメダルなど記念の物も目に付きやすい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活ができるように、動線に物を置かないように整理整頓し、利用者様の目線に合わせたご案内を貼り、安心して移動していただけるように支援している。		